



2024 年度 教育開発・学習支援センター年報

目 次

2024 年度 教育開発支援機構 教育開発・学習支援センター活動報告 -----	1
2024 年度 教育開発支援機構 教育開発・学習支援センター ユニット活動報告	
教育サポートユニット -----	4
学習サポートユニット -----	8
データ活用推進ユニット -----	11
巻末資料 -----	13

2024 年度 教育開発・学習支援センター活動報告

教育開発支援機構

教育開発・学習支援センター長

1 事業執行体制

教育開発支援機構長 : 山本兼由 (生命科学部教授)

センター長 : 酒井理 (キャリアデザイン学部教授)

教育サポートユニット

リーダー : 秋野喜彦 (情報科学部教授)

サブリーダー: 末武康弘 (現代福祉学部教授)・小堀真知子 (グローバル教養学部准教授)

学習サポートユニット

リーダー : 酒井理 (キャリアデザイン学部教授 教育開発・学習支援センター長 (兼務))

サブリーダー: 荒井弘和 (文学部教授)・高橋五月 (人間環境学部教授)

データ活用推進ユニット

リーダー : 平野利幸 (理工学部教授)

サブリーダー: 長谷川翔平 (経営学部准教授)・橋爪絢子 (社会学部准教授)

事務局

: 学務部教育支援課

2 センター活動報告

(1) 教育開発支援機構他センターとの連携: 教育開発支援機構企画委員会における他センターとの情報共有

2024 年度に開催された 10 回の教育開発支援機構企画委員会に出席し、LFC の活動を他センターと情報共有することにつとめた。特に、企画委員会内でも対応が議論されたディプロマポリシーの学生への周知については、速やかに学習支援ハンドブックへの掲載対応をすることができた。

(2) センター活動の学内 PR と認知度向上: HP の充実/SNS の活用促進/年度末の広報活動分析

センターの活動を広く周知するため Web 掲示板、HP 等により複数のメディアを利用して発信することに取り組んだ。広報効果としては、2024 年度の HP のアクセス数は 70,241 (2023 年度) → 48,466 (2024 年度)、SNS のフォロワー数は X (旧 Twitter) が 39 (2023 年度) → 37 (2024 年度)、Facebook が 604 (2023 年度) → 597 (2024 年度) となった。

2023 年度教育開発・学習支援センター年報としてまとめ発行して成果を広く情報公開した。

(3) 他大学との連携促進と FD 情報の収集: 全国私立大学 FD 連携フォーラム/大学コンソーシアム京都 FD フォーラムへの参加

全国私立大学 FD 連携フォーラムでは、FD への学生参画をテーマに、学生の大学運営への関与する取り組みについて各大学と情報交換することができた。また同志社大学のラーニング・コモンズの視察調査で先進的な学習支援状況を知ることができた。関東圏 FD 連絡会 (青山学院大学・國學院大学・東洋大学・法政大学・立教大学) では、特段 GPA 水準のコントロールについて各大学の考え方、実態を情報交換することができた。大学コンソーシアム京都 FD フォーラムでは、他大学の FD の取り組みについて多くの情報を得ることができた。京都産業大学、龍谷大学、立命館大学の取り組み、また大阪大学、滋賀大学などの学内 DX の推進状況など情報収集した。

(4) 学部・教員への報告による活動内容の周知：新任研修における活動紹介／学部長会議・研究科長会議における報告と周知

学部長会議、研究科長会議での事業案内、実績報告については丁寧に説明することに努めた。特段、L ステゼミについては、学部長会議・研究科長会議の案内に加えて、直接教員宛にメール配信をするなど LF センターからダイレクトに情報発信をすることで講師応募者が激増するなどの成果が生まれた。新任教員研修会、FD 教員セミナー、lms2025 説明会など教員とのタッチポイントでは、LF センターの認知度の向上に向けて役割、実績をアピールすることができた。

3 各ユニット活動報告

(1) 教育サポートユニット

- a 授業リフレクションのための学生による授業参観 [巻末資料 1]
実施授業数：春学期 13 授業（教員 13 名）、秋学期 7 授業（教員 6 名）
- b 学生 FD スタッフ活用による FD プロジェクトの実施
学習サポートユニットと合同、大学評価室と共催で 3 回開催
- c FD 教員セミナー 3 回実施（7/31、11/1、3/14） [巻末資料 2～4]
- d Newsletter の発行 6 回発行
- e 学部等教授会への FD 研修 13 学部実施
動画利用：法学部、文学部、経営学部、国際文化学部、人間環境学部、キャリアデザイン学部、グローバル教養学部、デザイン工学部、現代福祉学部、スポーツ健康学部、情報科学部、理工学部、生命科学部
- f 教員による授業相互参観 288 件
- g FD/SD ワークショップ [巻末資料 5]
- h シラバスの点検と改善
- i 学習支援システム運営委員会の運営（8/20、3/25）

(2) 学習サポートユニット

- a 『学習支援ハンドブック』の発行 [巻末資料 6]
DP に関する説明の新規追加
- b 『T・A ハンドブック』の発行 [巻末資料 7]
障がいのある学生への配慮に関する記述の追加
- c 学習ステーションの運営（学生スタッフ：春学期 47 名、秋学期 42 名）
新入生サポートプログラムの実施（新入生：のべ 887 名、サポーター：48 名）
学生企画型プログラムの支援（54 回実施）
- d 正課学習を支援する正課外活動の充実（L ステゼミ 21 回の講座提供） [巻末資料 8]
- e プレ FD プログラムの実施（今年度修了者 1 名） [巻末資料 9]
- f プレ FD プログラム修了者リストの設置と当該制度運用の開始
- g ピアネット運営委員会の運営（ピアネット学生スタッフ合同研修会 12/14：44 名参加）
- h 学習環境改善検討委員会の運営（3/28）
- i 学生 FD スタッフ活用による学生 FD プロジェクト
教育サポートユニットと合同、大学評価室と共催で 3 回開催

(3) データ活用推進ユニット

- a 授業改善アンケートの企画・実施と分析、報告書の作成と公開 [巻末資料 10]
- b 学生に対する生成 AI の利用に関する調査の実施と分析および報告書の作成 [巻末資料 11]
- c 教員に対する生成 AI の利用に関する調査の実施と分析および報告書の作成 [巻末資料 12]

4 学内会議

- (1) 教育開発支援機構企画委員会
10 回 (4/18、5/23、6/13、7/18、9/19、10/24、11/14、12/19、1/23、3/13)
- (2) ユニット・リーダー会議
10 回 (4/10、5/15、6/5、7/3、9/4、10/2、10/30、12/4、1/15、3/11)

5 所属学会・参加団体・外部対応

- (1) 全国私立大学 FD 連携フォーラム (JPFF : Japan Private Universities FD Coalition Forum)
(38 大学加盟) : 幹事校
幹事会・総会・シンポジウム (6/15)
幹事校・会員校ミーティング・懇談会 (1/22)
- (2) 関東圏 FD 連絡会 (青山学院大学・國學院大学・東洋大学・法政大学・立教大学)
事務連絡会 (6/10)
連絡会 (9/13)
- (3) 大学 e ラーニング協議会 (UeLA) : 幹事校
UeLA 2024 年度総会 (3/4)

6 その他

- 大学コンソーシアム京都「第 30 回 FD・SD フォーラム」(3/1、3/2) : 教職員 6 名

以 上

2024 年度 教育開発支援機構 教育開発・学習支援センター ユニット活動報告

<教育サポートユニット>

I 2024 年度活動計画

1 ユニット・メンバー（五十音順、*：ユニット・リーダー、**：ユニット・サブリーダー）

秋野喜彦（情報科学部）*
伊藤栄寿（法学部）
井波真琴（大学院事務部大学院課授業担当）
小堀真知子（グローバル教養学部）**
末武康弘（現代福祉学部）**
久井英輔（キャリアデザイン学部）
山本洋輔（学務部教育支援課システム担当）
[事務局]鍋田純子（学務部教育支援課教育支援担当）

2 活動目的

授業レベル、学部・研究科レベル、全学レベルそれぞれでの教育支援を行う。

3 活動計画

(1) 教員への教育支援

- a 授業リフレクションのための学生による授業参観
 - (a) 教員の応募が少ない状況への対応（とくに専任）
 - (b) 兼任講師への周知とニーズに応える工夫をする
- b 学生 FD スタッフ活用による FD プロジェクトの活性化
学生の学びを向上させるために、学生からの意見を入手したい。
「学習サポートユニット」と「教育サポートユニット」の共同実施とする予定。
具体的な方法・内容を検討後、今年度 1 回実施（実施日程は未定）
- c FD 教員セミナーの実施
 - (a) 3 回実施（7 月、12 月、3 月）（変更の可能性あり）
「ベストティーチャーによる授業運営の工夫」は好評のため vol.4 を実施予定。
その他のテーマ案は以下。
「障がい学生への合理的配慮」に関して。
（可能であれば、障がい学生支援室との共同実施）
「生成 AI の具体的・実践的な活用」に関して。
「著作権」に関して。専門領域の違いによる留意点など。
「新学習支援システムの導入研修」
 - (b) 昨年度テーマ
「学生が選ぶベストティーチャーによる授業運営の工夫 vol.3」（7 月）
「大学教育における著作権について」（12 月）
「生成 AI と高等教育機関におけるその活用法～教育とその評価を中心に～」（3 月）
- d 「Newsletter」の発行
年間 5 回（以上）発行予定（6 月、7 月、10 月、12 月、3 月）
 - ・セミナーに関しての情報発信（3 回）
 - ・授業リフレクションのための学生による授業参観、FD プロジェクト、その他から 2 回以上
- e アカデミック・サポートサービスの運用及び当該サービスの一層の普及への検討
普及のため Web 掲示板を活用。場合によっては Newsletter の発行を検討。

- f FD 動画サービスの導入・運用
全国私立大学 FD 連携フォーラム(JPFF)が提供する「実践的 FD プログラムオンデマンド講義」を導入・運用する。
- (2) 学部・研究科の教育支援
 - a 学部等教授会への FD 研修サポートの推進（オンデマンド化等）
 - ・JPFF の動画コンテンツ（***テーマについては要検討）の視聴を促進
 - ・オンデマンド化による FD 研修を促進のため動画コンテンツの作成。コンテンツ案は以下。
 - (a) 障がい学生への合理的配慮について
 - (b) 単位とは
 - (c) 学生問題関連
 - b 教員による授業相互参観の促進
各学部の実施状況を取りまとめ共有する。
- (3) 全学レベルでの教育支援
 - a FD/SD ワークショップ
 - (a) 1 回実施（9 月 6 日（金）午後予定）
 - (b) 昨年度テーマ：高等教育現場における生成 AI の利用について考える（9 月）
 - b シラバスの点検と改善
 - c 学習支援システム運営委員会の開催運営（年 2 回開催予定）

以上

II 2024 年度活動実績（報告）

1 教員への教育支援

（1）授業リフレクションのための学生による授業参観

[巻末資料 1]

2024 年 5 月 18 日（土）13:00～14:30 に事前研修を実施

授業参観は以下の通り実施

実施期間 : 春学期 7 月 1 日（月）～ 7 月 22 日（月）

秋学期 12 月 2 日（月）～ 12 月 20 日（金）

参観登録学生 : 56 名

参観学生 : 春学期 38 名、秋学期 20 名（延べ数）

実施授業数 : 春学期 13 授業（教員 13 名）、秋学期 7 授業（教員 6 名）

（2）学生 FD スタッフ活用による FD プロジェクトの活性化

学習サポートユニットを共同で実施。詳細は、学習サポートユニットの活動報告を参照。

（3）FD 教員セミナーの実施

日程・内容などは以下の通りで、計 3 回実施。

① 2024 年度第 1 回 FD 教員セミナー

[巻末資料 2]

日時 : 7 月 31 日（水）18:00～19:30（オンライン開催）

テーマ : 学生が選ぶベストティーチャーによる授業運営の工夫 vol.4

参加者数 : 114 名

② 2024 年度第 2 回 FD 教員セミナー／学生相談・支援室教職員対象研修会

[巻末資料 3]

日時 : 11 月 1 日（金）16:00～17:30（オンライン開催）

テーマ : 障害のある学生への合理的配慮と建設的対話－教職員ができること－

参加者数 : 95 名

③ 2024 年度第 3 回 FD 教員セミナー

[巻末資料 4]

日時 : 3 月 14 日（金）17:30～19:00（オンライン開催）

テーマ : 授業における生成 AI ツールの活用と対策

参加者数 : 176 名

（4）「LF センター Newsletter」の発行

2024 年度 1 号 2024 年 9 月 4 日

2024 年度第 1 回 FD 教員セミナー開催報告

2024 年度 2 号 2024 年 10 月 2 日

法政大学第 26 回 FD ワークショップ開催報告

2024 年度 3 号 2024 年 12 月 4 日

2024 年度第 2 回 FD 教員セミナー開催報告

2024 年度 4 号 2024 年 12 月 4 日

学生 FD プロジェクトイベント開催報告

第 2 回「法政大学の教育の質保証・質向上に関する学生座談会」報告

2024 年度 5 号 2024 年 12 月 4 日

2024 年度プレ FD プログラム実施報告

2024 年度 6 号 2025 年 3 月 31 日

2024 年度第 3 回 FD 教員セミナー開催報告

以上、計 6 号発行

（5）アカデミック・サポートサービスの運用及び当該サービスの一層の普及への検討

普及のため、Web 掲示板を活用して定期的に周知することを確認した。

（6）FD 動画サービスの導入・運用

申込教員数 : 59 名

2 学部・研究科への教育支援

(1) 学部等教授会への FD 研修サポートの推進

全学的な事項についての共通理解を図る目的で進めている教授会 FD 研修は、これまでのリアルタイム実施ではなく、今年度から動画コンテンツの提供に変更した。以下のオンデマンドコンテンツを用意し、各学部の FD 活動推進を図った。コンテンツについては順次増やしていく予定。

- ① 「障がい学生への合理的配慮について」
- ② 「大学設置基準における単位制度と単位について」

実施学部：

- ① 法、経営、国際、キャリアデザイン、現代福祉、スポーツ健康、デザイン工、情報科、生命
- ② 文、国際、人間環境、GIS、現代福祉、理工、生命

(2) 教員による授業相互参観の促進

実施期間：学部により異なる

実施授業数：288 件

3 全学レベルでの教育支援

(1) FD/SD ワークショップ

第 26 回 FD ワークショップ／教育支援研修（オンライン開催）

[巻末資料 5]

開催日時：2024 年 9 月 6 日（金）14:00～17:00

テーマ：学校改革で社会が変わる

—VUCA 時代における組織マネジメントから学校変革を促す—

参加者数：103 名

(2) 大学設置基準改正に伴う本学における単位制度の扱いにかかる検討について

授業分類およびその必要性・活用性について検討、また単位計算の運営・運用に関する尺度についての教員および学生の理解を促進するための文書を作成し、周知方法を提案した。

(3) シラバスの点検と改善

シラバス作成ガイドラインの改訂について検討したが、今年度は変更しないことを確認した。

(4) 学習支援システム運営委員会の運営

新学習支援システム（lms2025）が、日本データパシフィック株式会社（製品名：WebClass）に決定したことに伴い会議を実施した。また、システム構築後の操作テストについて協力対応した。

2024 年 8 月 20 日（火） 第 1 回学習支援システム運営委員会（メール会議）

2025 年 3 月 25 日（火） 第 2 回学習支援システム運営委員会（メール会議）

以上

<学習サポートユニット>

I 2024 年度活動計画

1 ユニット・メンバー（五十音順、*：ユニット・リーダー、**：ユニット・サブリーダー）

荒井弘和（文学部）**
片上千恵（スポーツ健康学部）
酒井理（キャリアデザイン学部／教育開発・学習支援センター長兼務）*
高橋五月（人間環境学部）**
根橋巧（学務部教育支援課）
道奥康治（デザイン工学部）
八木橋毅司（経済学部）
渡邊えみり（リカレント・通信教育センター事務局通信教育部事務課教務担当）
[事務局]齊藤光平（学務部教育支援課教育支援担当）

2 活動目的

学習サポートユニットの主たる活動目的は次のとおりである

- （１）学生の主体的な学習の支援に関する教育環境・学習環境の研究及び整備を行うこと
- （２）全学的な教育支援施策、学習支援施策、教育・学習環境整備の企画、提案及び調整を行うこと

3 活動計画

上記目的を達成するために、次の学習支援活動を実施する。

- （１）主体的学習のハード・ソフト支援
 - a 「学習支援ハンドブック」の発行
 - (a) 2024 年度版の内容検討および加筆修正の実施
 - (b) 利用状況（アクセス数）の把握と今後の活用方法の検討
 - b 「T・A ハンドブック」の発行
 - (a) 2024 年度版の内容確認（必要に応じて修正）
 - (b) 利用状況（アクセス数）の把握
 - c 学習ステーションの運営と活用促進
 - (a) 新入生サポート事業の実施
 - (b) 学生企画型プログラムの支援
- （２）正課外の学習サポート
 - a 正課学習を支援する正課外活動の充実（L ステゼミの実施）
 - (a) 「基礎的学習スキル」と「専門分野以外の幅広い学びの機会」を提供するゼミ企画
 - (b) 講師人材プールの拡大に向けた応募方法検討
 - b プレ FD プログラムの実施
 - (a) プレ FD プログラムの運用と情報発信による参加促進
 - (b) プレ FD プログラムの修了者インタビューの実施
 - c プレ FD プログラムの活用方法の検討（新規）
プレ FD プログラムの修了者のリスト化と学部への情報提供にかかる事業スキームの検討
- （３）学習環境整備の調整
 - a 学習環境改善検討委員会の運営
学習環境改善のための支援と整備に向けた意見集約の実施
 - b ピアネット運営委員会の運営
 - (a) ピアネット合同研修会の企画と実施
 - (b) 学生 FD プロジェクトの実施（大学評価室、教育サポートユニットとの共同実施）

以上

II 2024 年度活動実績（報告）

1 主体的学習のハード・ソフト支援

(1)「学習支援ハンドブック」の発行

[巻末資料 6]

a 2024 年度版の内容検討および加筆修正の実施

本年度は、本学のディプロマポリシーをわかりやすく学生に理解してもらうための新規コンテンツを作成した。具体的には、「大学で学ぶこととは」の章において、「大学での学びとディプロマポリシー」という見出しを掲げ、DPⅠ～Ⅶをわかりやすく解説して学生のリアルなコメントを付す構成とした。

b 利用状況（アクセス数）の把握と今後の活用方法の検討

2023 年度の水準(32,500 アクセス)を維持することを目標とした。3 月 10 日時点で 31,394 アクセスを記録している。達成状況は 96.5%であるので、年間でのアクセス数に換算すると昨年度同等水準となる。

(2)「T・A ハンドブック」の発行

[巻末資料 7]

大学において障がいのある学生への合理的配慮が義務化されたことにともない、T・A にも当該事項に関して間違いのない対応を求めるために新たにハンドブックに当該内容を追加して改訂した。

(3) 学習ステーションの運営と活用促進

学習ステーションの運営においては、安定した運営のために参加する学生スタッフ数を 2023 年度並で維持することを目標とした。学期毎に 40 名程度のスタッフを期待したところ春学期 47 名、秋学期 42 名の参加を実現することができた。

a 新入生サポート事業の実施

新入生のサポート事業に関しては、新入生のべ 887 名に対して、新入生サポーター 48 名が対応した。昨年度の実績と同等水準で事業を展開した。

b 学生企画型プログラムの支援

2024 年度の「学生企画プログラム」は 54 回（春学期 49 回/秋学期 5 回）実施した。昨年度 95 回実施と比較して 41 回減少する状況とはなったが、秋学期から、より質を重視した学習支援プログラムに移行するために、企画実施までの決定プロセスを整備したことが理由であり、その分教職員と学生スタッフの対話が増え、また学生スタッフの主体的な関わりが増えたことで、コミュニティとしての機能も強化された。

2 正課外の学習サポート

(1) 正課学習を支援する正課外活動の充実（L ステゼミの実施）

[巻末資料 8]

L ステゼミ講師の募集に課題があったため、今年度より学部長会議での案内等の例年の告知に加えて、全教員へメールを送付して募集をかけることとした。その結果、多くの教員からの応募があり、春学期 11 講座、秋学期 10 講座を開催することができ、通年では 21 講座の開催を達成した。2023 年度の 14 講座開催から大きく講座数を伸ばすことができたが、一方で 1 講座あたりの参加学生数が少なくなるといった課題も出ることとなった。

(2) プレ FD プログラムの実施

[巻末資料 9]

博士後期課程学生を対象としたプレ FD プログラムも実施 3 年目となった。本年度は秋学期に 1 名の修了者を出すことができた。2023 年度の 2 名を超え 3 名の修了者を出すことを目標としたが未達成となった。プログラムの改善と充実のためにプレ FD プログラムの修了者に対してインタビューを実施した。インタビュー内容をニューズレター記事にすることで認知を広げる取り組みを行った。また、インタビューから博士後期課程学生のニーズを把握することで、大学院生同士のコミュニティづくりといった今後の LF センターの新たな取り組みのヒントを得ることができた。

(3) プレ FD プログラムの活用方法の検討（新規）

当該プログラムの潜在的利用者に向けて、プログラムへの参加意欲を高めるため修了者からの同意の上でプレ FD プログラム修了者をリスト化し、本学の学部・ILAC・KLAC の兼任教員採用のニーズに対応できる情報提供の仕組みを制度化した。本年度中に制度スキームをつくり学部長会議、研究科長会議にて案内することができた。

3 学習環境整備の調整

(1) 学習環境改善検討委員会の運営

学習環境改善のための支援と整備を行うため、3月28日にオンライン会議を開催し、関連部局との意見交換を行った。

(2) ピアネット運営委員会の運営

a ピアネット合同研修会の企画と実施

2024年12月14日に研修会を実施した。44名のピアネット学生スタッフが参加した。研修会は三部で構成され、第一部はピアネットの概要講演、第二部は日比千里氏（本学兼任講師・サードパーティー株式会社）によるチームビルディングのワークショップ、第三部は参加者同士の情報交換を行った。

b 学生FDプロジェクトの実施（大学評価室、教育サポートユニットとの共同実施）

今年度は大学評価室と共同で「法政大学の教育の質保証・質向上に関する学生座談会」と題して学生FDプロジェクトを実施した。学生の自主的な学びを促進するために学習環境に対する課題やニーズを把握する重要なチャネルとして位置づけている事業となる。第1回と第3回は大学評価室が主体となり実施され、第2回は学習サポートユニット・教育サポートユニットの共同体制で実施した。

第2回は、3名の教員が8名の学生にヒアリングを行い、大学における学習環境、学習状況について意見を収集した。具体的には、市ヶ谷キャンパスにおける学習スペースの情報提供の課題、小金井キャンパスのWi-Fi環境の課題、多摩キャンパスの物理的アクセスの課題等の意見を把握した。

以上

<データ活用推進ユニット>

I 2024 年度活動計画

1 ユニット・メンバー（五十音順、*：ユニット・リーダー、**：ユニット・サブリーダー）

大嶋良明（国際文化学部）
西川正俊（生命科学部）
根橋巧（学務部教育支援課）
橋爪絢子（社会学部）**
長谷川翔平（経営学部）**
平野利幸（理工学部）*
松本雄大（総長室大学評価室）
森山祐紀（総長室大学評価室）
[事務局] 齊藤光平（学務部教育支援課教育支援担当）→岩田裕美（学務部教育支援課教育支援担当）
林美和（学務部教育支援課教育支援担当）

2 活動目的

各種アンケートの実施等によってデータの収集を行い、FD 活動へのフィードバックとなるようデータの分析・活用の提案等を行う。

3 活動計画

(1) 学生に対するデータ収集と活用

a 授業改善アンケートの企画・実施と分析

- (a) 昨年度に実施した「学生による授業改善アンケート」の分析・報告等を行い、必要に応じて調査等も行う。
- (b) 回答率向上に向けた検討を行う。

b 生成 AI の利用に関する調査の実施と分析

「生成 AI の利用に関する学生対象調査」の実施・分析・報告等を行う。

(2) 教員（特に兼任講師）に対するデータの収集と分析

a 学習支援システムの活用度データの収集と分析

学習支援システムの活用に関するデータの分析等をし、一層の活用に向けた提案を行う。

b 授業運営にかかる支援ニーズの把握

FD 教員セミナー等に参加する教員（特に兼任講師）から収集できる各種要望から、支援ニーズの掘り起こしを行う。

c 生成 AI の利用に関する調査の実施分析

「生成 AI の利用に関する教員対象調査」の実施・分析・報告等を行う。

(3) 全学レベルでの FD データ活用

a 学修成果可視化システム（Halo）データ活用方法の検討・案内

導入された Halo の一層の活用に向けて、そのデータ活用方法等の提案を行う。

b 成績データの時系列・規模別・学部別集計分析

成績データの時系列・規模別・学部別集計分析・報告等を行う。

c 成績データ活用方法の検討

経年の成績データから、これまでの傾向等を調査し、それらの活用等について検討する。

以 上

II 2024 年度活動実績（報告）

1 学生に対するデータ収集と活用

（1）授業改善アンケートの企画・実施と分析

【巻末資料 10】

- a 『2023 年度授業改善アンケート全学集計結果報告』を作成した。
- b 同報告（学部及び大学院）は第 2 回データ活用推進ユニット会議（2024 年 6 月 21 日（金）実施）に報告、承認された。
- c 同報告（学部及び大学院）は第 4 回ユニット・リーダー会議（2024 年 7 月 3 日（水）実施）に報告、承認された。
- d ユニット・リーダー会議承認後、第 6 回学部長会議（2024 年 7 月 11 日（木）実施）で報告の上、同報告を教育開発・学習支援センターホームページにて公開した。

（2）生成 AI の利用に関する調査の実施と分析

【巻末資料 11】

- a ユニット内で質問内容を検討し、全学部生（通学課程）・大学院生を対象として 2024 年 12 月 10 日（火）～2025 年 1 月 31 日（金）の期間で「生成 AI ツールの利用に関する学生対象アンケート」を実施した。
- b 本調査に関する報告書（学生）はデータ活用推進ユニット会議（2025 年 3 月 6 日（木）実施）に報告、承認された。
- c 同報告書（学生）は第 10 回ユニット・リーダー会議（2025 年 3 月 11 日（火）実施）に報告のうえ、第 18 回学部長会議（2025 年 3 月 21 日（金）実施）で報告された。

2 教員（特に兼任講師）に対するデータの収集と分析

（1）学習支援システムの活用度データの収集と分析

- a 学習支援システム(lms)のリプレイスが既に進んでいるため、現在の lms を振り返っても、改善点や要望をシステムの機能に直接反映できないため、学習支援システムの分析については、2025 年度に lms2025 にて実施することとし、次年度に向けてどのような目標設定を立てれば良いかを次年度に引き継ぐこととした。

（2）授業運営にかかる支援ニーズの把握

- a 今年度実施した「生成 AI ツールの利用に関する教員対象アンケート」の回答結果からグッドプラクティスを抽出し、2025 年 3 月 14 日(金)実施の FD 教員セミナーの開催につなげることができた。

（3）生成 AI の利用に関する調査の実施分析

【巻末資料 12】

- a ユニット内で質問内容を検討し、教員（兼任講師を含む）を対象として 2024 年 10 月 21 日（月）～11 月 10 日（土）の期間で「生成 AI ツールの利用に関する教員対象アンケート」を実施した。
- b 本調査に関する報告書（教員）は第 4 回データ活用推進ユニット会議（2024 年 12 月 24 日（火）実施）に報告、承認された。
- c 同報告書（教員）は第 9 回ユニット・リーダー会議（2025 年 1 月 15 日（水）実施）に報告のうえ、第 18 回学部長会議（2025 年 3 月 21 日（金）実施）で報告された。

3 全学レベルでの FD データ活用

（1）学修成果可視化システム（Halo）データ活用方法の検討・案内

- a 第一段階として学部学科単位での活用方法について検討した。検討結果に対する具体的な提案については、次年度以降に検討を行う。

（2）成績データの時系列・規模別・学部別集計分析

- a 学修成果可視化システム（Halo）データから、成績データの集計を試みた。次年度についても引き続き集計及び分析を行う。

（3）成績データ活用方法の検討

- a 成績データ活用にあたり、学年ごとに必要なニーズおよび学生自身の振り返りができる仕組みを検討した。

以上

巻末資料

1 授業リフレクションのための学生による授業参観

専任教員・兼任講師の皆さまへ

2024年度春学期・秋学期

授業リフレクションのための学生による授業参観

学生の視点からの意見を取り入れ、教員の授業や教育方法の改善に活かすための制度です。自身の授業の振り返り・改善に向けても活用できます。

- 授業改善に関心のある学生を募集し、事前研修を実施
- 複数の学生（専修学生以外）を派遣し、教員と事前打ち合わせを実施
- 所定のチェックシートに基づき、学生は受講者と異なる視点から客観的に授業を観望し、授業の進め方（話し方、板書方法等）をチェック（専門的な内容を除く）
- 学生から該当授業担当教員のみへ建設的なフィードバックを行う（フィードバックの内容を第三者が見ることはありません）
- 録画したZoomでのオンライン授業について、本制度を活用することも可能
- 継続的な学生の意見を聞くチャンス（学生から評価されるわけではありません）

～前年度チェックシート～

～以前に利用した先生方の声～

もちろん各自項目の追加も可能です！

実施の流れ

募集及び実施期間

申込方法

お問い合わせ：
法政大学教育開発支援機構 教育開発・学習支援センター（事務局：学務部教育支援課）
TEL: 03-3264-4268 E-mail: kyoiku@hosei.ac.jp

2024年度春・秋学期

学生募集

授業リフレクションのための学生による授業参観

教育開発・学習支援センターでは、学生と教員が共に授業をより良くすることを目的に、**学生による授業参観の参加者を募集**します。

学生は受講者としてではなく、教員でも受講者でもない第三者の立場として**授業参観**をしていただき、授業に気づきを得たい点を教員にフィードバックしていただきます。

【授業リフレクションのための学生による授業参観とは】

学生視点の意見を取り入れ、授業改善に活かすための制度です。事前研修を受けた学生が**授業参観**を行います。学生は授業参観を行い、チェックシートを基に学生の視点から、授業の進め方（話し方、板書方法等）について、気づいた点を教員にフィードバックします。教員は、学生からのフィードバックを受けて得た気づきを、今後の授業改善に役立てます。

【応募条件】

- 1 本学に在籍している正規学生（法学部・文学部・経済学部・経営学部・工学部・薬学部・看護学部・国際学部・国際文化学部・国際経営学部・国際情報学部・国際コミュニケーション学部・国際環境学部・国際社会学部・国際文化学部・国際経営学部・国際情報学部・国際コミュニケーション学部・国際環境学部・国際社会学部）
- 2 企画の主旨に賛同し、積極的に責任のある意見を発言できる方
- 3 事前研修に必ず参加すること

事前研修日程：5月18日（土）13:00～（予定）※Zoomにて実施（1時間半程度）

【授業参観の実施期間】

＜春学期＞ 2024年7月1日（月）～2024年7月22日（月）
＜秋学期＞ 2024年12月2日（月）～2024年12月20日（金）
※上記期間のうち募集のあった授業1コマ（複数回授業も可能）
※応募状況により、希望していたいても派遣できない場合があります。予めご了承ください。

【実施までの流れ】

事前研修（90分）⇒ 担当教員と事前打ち合わせ ⇒ 授業参観（100分）⇒ 教員へのフィードバック
※ 授業スケジュール上のアランが延長しない場合は、授業への派遣が出来なくなります。
派遣された方には、謝礼として5,000円分のギフト券をお渡しします。

【申込方法】

下記よりお申し込みください。（法政大学Gmailへのログインが必要です）
<https://forms.gle/ywq6a9ktULX3ufE7>

お問い合わせ：
法政大学教育開発支援機構 教育開発・学習支援センター（事務局：学務部教育支援課）
TEL: 03-3264-4268 E-mail: kyoiku@hosei.ac.jp

2 第1回FD教員セミナー

「学生が選ぶベストティーチャーによる授業運営の工夫 vol.4」(2024年7月31日)

主催：法政大学教育開発支援機構 教育開発・学習支援センター

2024年度第1回FD教員セミナー

学生が選ぶベストティーチャーによる授業運営の工夫 vol.4

毎年好評の「学生が選ぶベストティーチャー賞」受賞教員による講演の第4弾です。実際に授業を受けている学生から多くの支持を受けた授業運営の工夫を紹介します。セミナー内では質疑応答の時間も設けますので、勇ってご参加ください。

日時 7月31日 水 18:00～19:30

開催方法 Zoomによるオンライン開催
※録画による後日配信は行いません

対象 本学教員（専任教員・兼任講師） 定員 なし
・博士後期課程学生

講演者（2023年度受賞）

李 舜志
社会学部准教授

【主な担当科目】
メディア人間1・Ⅱ
【専門分野・研究テーマ】
教育哲学、教育社会学

首藤 裕一
情報科学部准教授

【主な担当科目】
データ構造とアルゴリズム1・2
新技術選2、コンピュータシステム入門
【専門分野・研究テーマ】
経済計算科学（特に分散計算理論）

参加申込方法

右記のQRコード、またはURLにアクセスし、指定の申込フォームにてお申し込みください。
URL: <https://forms.gle/4gxNFK7ZUpHEpCmR7>
※ログインの際に使用するメールアドレスは、ご自身の法政大学のメールアドレス(hosei.ac.jp)をご入力ください。
※個人情報保護法に基づき、本イベント以外の目的で使用いたしません。

申込締切 7月29日（月）17:00

法政大学教育開発支援機構 教育開発・学習支援センター
TEL: 03-3264-4268 E-mail: kyoiku@hosei.ac.jp

法政大学
Hosei University

3 第2回 FD 教員セミナー

「障害のある学生への合理的配慮と建設的対話—教職員ができること—」(2024 年 11 月 1 日)

共 催：学生相談・支援室（障がい学生支援室）
教育開発支援機構 教育開発・学習支援センター

2024年度
学生相談・支援室教職員対象研修会／第2回FD教員セミナー

**「障害のある学生への合理的配慮と建設的対話
—教職員ができること—」**

2024年度の「障害者差別解消法」改正法施行に伴い、大学において障がいのある学生への合理的配慮が法的に義務化されました。そこで本研修では、義務化の背景や建設的対話のポイント、事前の改善措置などの基本的な事項を踏まえたうえで、学生の修学機会へのアクセシビリティを高めるといった考え方や合理的な変更・調整とはどのようなものかなど、合理的配慮の目指す根本的な考え方について、実践的にお話しいただきます。皆様奮ってご参加ください。

講演者 佐々木銀河氏 略歴

筑波大学人間系准教授、博士（障害科学）、公認心理師、臨床発達心理士。専門は、発達障害、応用行動分析学、障害学生支援。筑波大学ヒューマンエンバウメント推進局業務推進マネージャーとして、筑波大学の障害学生支援に関するマネジメント業務に携わっている。また、発達障害の診断や傾向のある大学生の修学支援に関する研究活動を進めており、特に発達障害のある方の支援技術（Assistive Technology: AT）の開発や効果検証を行っている。そのほか、全国の大学等において障害学生支援に関するFD/SD等の研修活動を行っている。令和4年度科学技術分野における文部科学大臣表彰 科学技術賞（理解増進部門）受賞。

主な著書：「発達障害のある大学生のアセスメント」（金子書房：編著）、「ヒトはそれを『発達障害』と名づけた」（金子書房：編・解説）、「よくわかる！大学における障害学生支援—こんなときどうする？—」（ジヤース教育新社：分担執筆）、「合理的配慮ハンドブック・障害のある学生を支援する教職員のために」（ジヤース教育新社：分担執筆）

【日 時】2024年11月1日（金）16:00～17:30
【開催方法】Zoomによるオンライン形式（後日動画配信あり）
【対 象 者】法政大学教職員（付属校含む）、
法政大学博士後期課程学生
【申込方法】▼以下URLまたは
QRコードよりお申し込みください
URL: <https://forms.gle/RJU4o4ZHhfzHEqGwG8>
【申込締切】10月29日（火）

4 第3回 FD 教員セミナー

「授業における生成 AI ツールの活用と対策」(2025 年 3 月 14 日)

主 催：教育開発支援機構 教育開発・学習支援センター

2024年度第3回FD教員セミナー

授業における生成AIツールの活用と対策

今年度学内で実施した生成AIツールの利用に関するアンケートの結果を報告するとともに、実際に授業で生成AIツールを活用されている先生にその具体的な方法についてお話しいただきます。多くの学生が利用している生成AIツールを理解し、一緒に活用方法や対策を考えませんか。セミナー内では質疑応答の時間も設けますので、奮ってご参加ください。

日時 2025年**3月14日**（金）
17:30～19:00

対象 本学教員・博士後期課程学生

開催方法 Zoomによるオンライン開催
※録画による後日配信は行いません

定員 なし

講演者

堤 瑛美子
理工学部専任講師
【主な担当科目】
確率統計、集合知能
【専門分野・研究テーマ】
機械学習、深層学習

ル・ルー 清野 プレンダン
国際文化学部准教授
【主な担当科目】
フランス語、フランス語圏の文化
【専門分野・研究テーマ】
日仏関係史

参加申込方法

下記のQRコード、またはURLにアクセスし、指定の申込フォームにてお申し込みください。
URL: <https://short.hosei.ac.jp/6vnp5>

※ログインの際に使用するメールアドレスは、ご自身の法政大学のメールアドレス(@hosei.ac.jp)をご入力ください。
 ※個人情報は厳密に管理し、本イベント以外の目的で使用いたしません。

申込締切 3月12日（水）17:00

法政大学教育開発支援機構 教育開発・学習支援センター
TEL：03-3264-4268 E-mail：kyotoku@hosei.ac.jp

法政大学
HOSEI UNIVERSITY

5 第26回 FD ワークショップ

「これからの学校教育が目指すべきもの－主体性と当事者性－」(2024 年 9 月 6 日)

法政大学第26回 FDワークショップ

主催: 法政大学教育開発支援機構 教育開発・学習支援センター／学務部
共催: 千代田区キャンパスコンソ

これからの学校教育が目指すべきもの－主体性と当事者性－

特別講演 「学校改革で社会が変わる
－VUCA 時代における組織マネジメントから学校変革を促す－」

我が国の18歳人口の推移を見ると、2005年には約137万人であったものが、現在は約112万人まで減少しています。今後、2035年には初めて100万人を割って、約96万人となり、さらに2040年には約82万人にまで減少するという推計もある中、高等教育のみならず、初等中等教育も含めた一体で構造的な刷新のもと、教育・学校改革の必要性が語られています。今回は、千代田区立麹町中学校や麹町南中学校・高等学校の教育改革をはじめ、これまで「内閣府教育再生実行会議委員」や「新進卒業生卒業後進路調査会臨時委員」などを歴任してきた工藤勇一氏を講師に迎え、これからの学校教育が目指すべきもの、さらには中学・高校から見れば「高大連携（接続）」「初年次教育」「高校が大学に求めるもの」についてご講演いただきます。

日 時

2024年 9月6日（金）14:00～17:00

開催方法

オンライン

対 象

法政大学教職員、千代田区キャンパスコンソ教職員

プログラム

<第一部> 14:00～15:30 FDワークショップ

◆開会挨拶 14:00～14:05 常務理事・副学長 小秋元 段

◆特別講演 14:05～15:15 「学校改革で社会が変わる－VUCA時代における組織マネジメントから学校変革を促す－」

講演者 工藤 勇一氏 (HOSEI2030推進本部アドバイザー 高大連携推進担当、徳島県立大学・教育学部教授)

◆質疑応答 15:15～15:30

休憩 (10分)

<第二部> 15:40～17:00 教育支援研修（学務部研修）（職員対象）

「学生参画を考える－学修者本位の教育－」

◆15:40～16:00 法政大学の取り組み紹介 学務部教育支援課長 土屋 貴之

◆16:00～16:30 グループワーク

◆16:30～16:50 発表

◆16:50～16:55 講評 常務理事 平山 尚雄

◆16:55～17:00 閉会挨拶 教育支援統括本部長・学務部長 菊池 克仁

申込方法

◆以下のURLまたはQRコードにアクセスし、指定の申込フォームにてお申込みください。

◆法政大学職員（学務部以外）の方は、所属長の許可を得た上でお申込みください。

◆第二部は職員対象のプログラムとなります。

<https://forms.gle/bJDxRHUQYtkr19B7>

申込締切: 2024年9月2日（月）15:00

※個人情報保護に留意し、本イベント以外の目的では使用いたしません。

お問い合わせ

法政大学教育開発支援機構 教育開発・学習支援センター／学務部
TEL: 03-3264-4268 E-mail: kyoiku@hosei.ac.jp

6 学習支援ハンドブック(抜粋)

INDEX

デジタル版はこちら <https://hosei-hondana.actibookone.com/>

- 02 法政大学へようこそ

WELCOME TO HOSEI UNIVERSITY

02 法政大学へようこそ 08 校歌を知ろう！
- 10 大学で学ぶことは

GETTING STARTED

13 時間割をつくる 15 法政ポータルサイト (Hoppli) について
 22 授業受講のルールとマナー 24 学習ポートフォリオのすすめ
 26 ノートの取り方 28 メールのマナー 29 ディスカッション
 30 生成 AI ツールに対する基本的考え方
 32 研究者としての倫理について ー科学コミュニティの一員としてー
- 34 成績評価・授業改善

GRADE AND COURSE EVALUATION

34 成績評価を受ける 38 学生による授業改善アンケート
- 40 レポートの書き方

HOW TO WRITE PAPERS

40 レポートを書く 41 レポート課題を吟味しよう！
 42 アイデアのまとめ方 ーレポート執筆の下準備ー
 44 レポートの構成 45 検証するには？
 46 アカデミックライティングの基礎 ーパラグラフとはー
 49 先行研究の適切な引用と区別 51 接続表現を適切に使って論理的に文章を組み立てよう！
 52 レポート提出前のチェックポイント 53 レポートの文庫術 55 校正記号
 56 レポート書式の例 58 英文レポート書式の例 60 キーボードに慣れよう！
- 62 プレゼンテーション技法

PRESENTATION SKILLS

62 プレゼンテーション基礎 ー準備ー 64 プレゼンテーション基礎 ー資料ー
 66 プレゼンテーション本番 ー心得ー
- 68 文献や情報の集め方

INFORMATION GATHERING

69 図書館を使いこなそう！
 72 インターネットで情報収集 ー信頼できるサイトの見分け方ー
- 76 その他

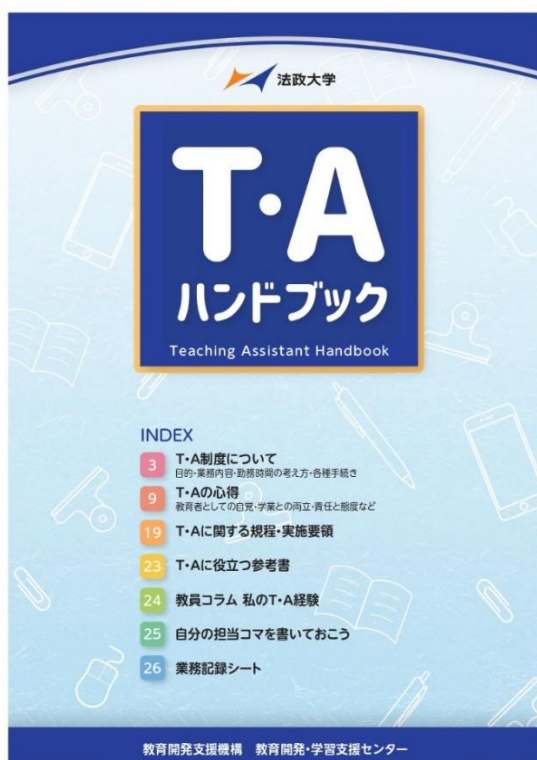
OTHER TOPICS

76 学生生活支援 Q & A
 79 あなたも挑戦してみよう！法政大学のコンテスト・奨励制度
- 80 法政大学お宝コレクション

SPECIAL HOSEI UNIVERSITY COLLECTIONS

80 法政大学図書館 82 野上記念法政大学音楽研究所
 83 大原社会問題研究所 84 沖縄文化研究所 85 HOSEI ミュージアム

7 T・Aハンドブック(抜粋)



8 Lステゼミ

2024年度 春学期 Lステゼミ

会議、討論会で評価されるファシリテーション・ノウハウの実践 兼任講師 川邊 安彦

【内容】経営学系学生時代に習得したファシリテーションの知識と実践の経験の共有と学びの場

6月24日 15:30～16:40
Zoomによるオンライン開催

生成AIと対話して、自分の得意分野を見つけよう 兼任講師 大間 哲

【内容】ChatGPTなどの生成AIは、検索エンジンと異なり、自ら学習し生成するAIです。今回は、生成AIと対話することで、自分の得意分野を見つけようというテーマで、生成AIの活用方法について学びます。

6月26日 16:50～18:10
Zoomによるオンライン開催

キャリアに生かす金融知識 兼任講師 大前 忠一朗

【内容】銀行に就職して働くだけでなく、キャリアアップや転職の機会にもなります。キャリア形成に際して、金融知識の習得は非常に重要です。

6月28日 16:30～17:50
市谷キャンパスにて対面開催

ダイバーシティとは何でしょうか。 兼任講師 Tan Bee Swaidy Jasmahira

【内容】ダイバーシティとは、多様な人々の存在を指します。ダイバーシティは、多様な人々の存在を指します。ダイバーシティは、多様な人々の存在を指します。

7月1日 16:30～17:50
市谷キャンパスにて対面開催(※使用言語:日本語・英語の併用)

自治体職員になりたい人の自治体政策と組織 兼任講師 鏡 諭

【内容】自治体職員に就きたい学生は、自治体政策や組織について学ぶ必要があります。自治体政策や組織について学ぶ必要があります。

7月2日 15:00～15:40
Zoomによるオンライン開催

様々なデザインに繋がる「3Dモデリング」入門 デザイン専攻専攻 大庭 広明

【内容】「3Dモデリング」によって表現されるデザインは、デジタルデザインやグラフィックデザインと密接に関連しています。デジタルデザインやグラフィックデザインと密接に関連しています。

7月4日 10:40～12:00
市谷キャンパスにて対面開催

京王線刺傷事件は何故起きたのか 兼任講師 西田 俊男

【内容】7月10日、京王線有楽町線有明駅で発生した刺傷事件。この事件は、社会問題として取り上げられています。この事件は、社会問題として取り上げられています。

7月10日 15:00～16:10
市谷キャンパスにて対面開催

映画からフェミニズムを考えよう 国際文化研究科国際文化専攻 博士後期課程2年 橋本 美波

【内容】フェミニズムとは、女性の権利や地位を向上させる運動や思想です。映画を通じてフェミニズムについて学びます。

7月12日 13:30～14:50
市谷キャンパスにて対面開催

American Holidays Independence Day 兼任講師 Adlian Abudurehman

【内容】Independence Dayは、アメリカ合衆国の独立記念日です。Independence Dayは、アメリカ合衆国の独立記念日です。

7月16日 13:30～14:50
市谷キャンパスにて対面開催(※使用言語:英語)

地球惑星科学に基づくグローバルな視点から環境を考える 文学部准教授 小寺 浩二

【内容】地球惑星科学の視点から、環境問題について考えます。地球惑星科学の視点から、環境問題について考えます。

7月19日 15:00～16:20
市谷キャンパスにてハイフレックス開催

テクノロジーが可能にする未来 兼任講師 岡本 敬

【内容】テクノロジーの発展により、未来はどのように変わっていくのでしょうか。テクノロジーの発展により、未来はどのように変わっていくのでしょうか。

7月22日 15:00～16:20
市谷キャンパスにて対面開催

申込方法

右側のQRコードよりアクセスの上、指定の申込フォームにてお申込みください。
※申し込み期限は各実施日の2日前です。
※申込に際しては、必要事項を記入する必要があります。
※申込には、前日までに会場の情報をお送りします。

【お問い合わせ】 法政大学 学習ステーション
TEL: 03-3264-4268 E-mail: l-station-jmu@hosei.ac.jp

10 2023 年度「学生による授業改善アンケート」全学集計結果報告書（抜粋）

 2023 年度 「学生による授業改善アンケート」全学集計結果報告書 2024 年 7 月 学部 P. 1～P. 16 大学院 P. 17～P. 29 発行：法政大学教育開発支援機構 教育開発・学習支援センター	学部 1 はじめに 2004 年度から開始した「学生による授業評価アンケート」は、2005 年度より ITD 推進センター（現教育開発・学習支援センター）が主催する形として、これまでに 18 年間実施してきました。アンケートは、2009 年度の調査・結果・発表の実施、教員への修習等を担保した形式での導入を踏まえ「学生による授業改善アンケート」へと名称変更され、2014 年度の秋学期より Web 形式で実施するなど改善を図ってきました。2017 年度からは、アンケート項目を 5 問とすると大幅な改善を行い、アンケートは授業内で実施いただくよう、修習を依頼しました。 本学は前年度アンケートは、2022 年 6 月 30 日（水）～8 月 8 日（月）の期間に実施しました。4 期秋の学部は、前学期前半アンケートとして、5 月 19 日（水）～6 月 8 日（水）の期間にも実施しました。秋学期後半アンケートは、2022 年 12 月 7 日（水）～2023 年 2 月 7 日（水）の期間に実施しました。4 期秋の学部は、秋学期前半アンケートとして、10 月 26 日（水）～11 月 16 日（水）の期間にも実施しました。 本学は法政学院（市ヶ谷キャンパス）、文学部（市ヶ谷キャンパス）、経営学部（市ヶ谷キャンパス）、国際文化学院（市ヶ谷キャンパス）、人間環境学部（市ヶ谷キャンパス）、キャリアデザイン学部（市ヶ谷キャンパス）、デザイン工学部（市ヶ谷キャンパス）、グローバル産業学部（市ヶ谷キャンパス）、経済学部（多摩キャンパス）、社会学部（多摩キャンパス）、環境情報学部（多摩キャンパス）、スポーツ健康学部（多摩キャンパス）、情報科学部（小金井キャンパス）、理工学部（小金井キャンパス）、生命科学部（小金井キャンパス）の 15 学部から構成され、さらに学生課員として法律教育学部（法学部・文学部・経済学部から構成）が加わります。 2022 年度のアンケート対象全科目数は 9,755 科目（春学期 4,866 科目、秋学期 4,889 科目）でした。そのうち、アンケートに回答があった科目数は 8,245 科目（春学期 4,298 科目、秋学期 3,947 科目）であり、回答率は 84.6%（春学期 87.6%、秋学期 81.6%）の回答率（回答した学生数/回答が想定される学生数の割合）を得るアンケートを数得することができました。すべてのアンケートデータは専用に年間の集計結果を収めています。 本アンケートの対象は本学学部で開講する全科目ですが、少人数制やゼミや研究の授業形態など明確な理由から 2022 年度は 2,077 科目のアンケートを未実施しました。未実施科目を科目種別で見ると、講義では 376 科目（講義全体の 8%）、演習では 934 科目（演習全体の 38%）、実習では 304 科目（実習全体の 9%）、実験では 168 科目（実験全体の 42%）、実務では 14 科目（実務全体の 5%）であり、実験では 181 科目（実験全体の 77%）であり、少人数で行う実習科目やゼミや研究がメインとなる科目で多くなります。これらの未実施科目では、教員のアンケートを行うなどの個別対応が行われています。 本年度アンケートを断念して終了した方は、教職員ならびに各関係者のみなさまのご協力なしでは成し得ないことであり、「授業改善アンケート」を営む教育開発・学習支援センターの活動へのご理解について心から感謝を申し上げます。また、本年度アンケート結果の集計と分析をまとめた本報告書が、関係者各位の大学における「教育および学びの質の向上」の一助になれば幸いです。 1
--	---

2. 全学集計結果について

本報告書では、5 段階の選択回答を求めた問 1～問 4 の集計結果とそれぞれの分析、問 3 の回答に対する問 1 と問 2 のクロス集計とそれぞれの分析、問 4 の回答に対する問 1、問 2、問 3 のクロス集計とそれぞれの分析を載せました。

以下では、問 1～問 3 に関する「教員の教員」と問 4 に関する「学生の修学」に分け、教職員側もしくは学生側から見える本学修学の現状を把握しやすくしました。具体的には、「教員の教員」では集計結果を問 3 を中心とした分析、「学生の修学」では問 4 を中心とした分析を行っています。

また、問 1～問 4 の集計結果は学年別、科目種別別、履修形態別、担当教員別、科目設置年度別に集計し、全学平均値と比較した分析を行っています。さらに、アンケート回答者の履修履歴を見るため、問 1～問 4 の回答が平均値と回答者学生の履修履歴を示しました。

3. 教員の教員に関するアンケート回答について

(1) 授業の工夫に対する学生の受け止め

「学生による授業改善アンケート」の問 1 は、授業の工夫に対する学生の受け止めを 5 段階評価として尋ねています。問 1 は「この授業では、積極的な工夫がなされています」とし、それに従って、回答へある授業のイメージをもってもらいました。例えば、熱意、授業方法、教書法、話し方、課題や主体的な学びへの促しなど、(5段階評価でご回答ください)を参照しています。全体の回答割合を見ると、大変工夫していた「5」と「4」を合わせた 77.3%の学生が授業に工夫があったと受け止めていました。一方、あまり工夫をしていない「1」と「2」を合わせた 5.5%の学生は授業の工夫を求めていません。平均値は春学期 4.09、秋学期 4.16、中央値は春学期・秋学期ともに 4 であり、全体的には授業に工夫があったと評価したことになります。

問 1 授業の工夫

評価	割合
5: 大変工夫していた	43.4%
4	33.9%
3	17.2%
2	3.3%
1: あまり工夫していない	2.2%

図 1

2

付表 学部データ：2022 年度全学集計表

問 1. この授業では、積極的な工夫がなされています。例えば、熱意、授業方法、教書法、話し方、課題や主体的な学びへの促しなど。（5段階評価でご回答ください）

項目	回答された 授業数	回答した 学生数	回答率	5 大変工夫 していた	4	3	2	1 あまり工夫 していない
<統計>	8,553	20,225	71.86%	31,157	24,328	12,395	2,402	1,584
<学年別>								
1 年	-	9,045	37,796	16,192	12,982	6,599	1,225	798
2 年	-	5,653	20,065	8,615	6,610	3,619	747	474
3 年	-	3,778	10,283	4,533	3,562	1,641	322	225
4 年	-	1,700	3,617	1,753	1,148	523	107	86
その他	-	49	105	64	26	13	1	1
<科目種別別>								
講義（含）	4,377	-	46,869	19,589	15,977	8,474	1,707	1,122
25 人未満	1,028	-	3,298	1,689	1,077	406	80	46
25～49 人	1,202	-	7,496	3,346	2,419	1,291	262	178
50～99 人	1,116	-	13,705	5,378	4,808	2,637	526	356
100～199 人	621	-	10,288	3,967	3,674	1,983	409	255
200～299 人	195	-	4,671	1,897	1,549	905	197	123
300 人以上	215	-	7,411	3,312	2,450	1,252	233	164
演習	988	-	4,492	2,231	1,411	646	119	85
実習	2,704	-	16,305	7,336	5,488	2,657	495	329
実験	196	-	2,320	996	851	383	54	36
実務	257	-	1,820	967	585	231	25	12
その他	31	-	60	38	16	4	2	0
<履修形態別>								
必修	3,222	-	25,282	10,532	8,710	4,541	880	619
その他	5,331	-	46,584	20,625	15,618	7,854	1,522	965
<担当教員別>								
専任	3,493	-	33,180	14,434	11,341	5,637	1,064	704
兼任	5,060	-	38,686	16,723	12,987	6,758	1,338	880
<科目設置年度別>								
市ヶ谷学部	2,053	-	16,596	7,563	5,411	2,668	610	344
市ヶ谷教員	2,305	-	16,824	8,117	5,618	2,391	413	285
小金井学部	1,147	-	13,220	4,755	4,909	2,736	480	340
小金井教員	553	-	5,365	2,138	1,902	1,013	189	123
多摩学部	2,084	-	17,244	7,313	5,683	3,178	631	439
通信教育	308	-	1,883	882	585	299	66	51
その他	103	-	734	389	220	110	13	2

13

11 学生に対する生成 AI ツールの利用に関する調査(抜粋)



2025年3月
近畿大学教育研究支援機構
教育開発・学習支援センター

生成 AI ツールの利用に関する学生対象調査の実施結果について

1. 調査概要

(1) 目的

ChatGPTを始めとした生成 AI ツールが手軽に利用できる状況になっているなか、学生の生成 AI ツールに対する考えや利用状況を把握することで、今後の教育改善や学習支援に活かすことを目的とする。

(2) 調査期間

2024年12月19日(木)～2025年1月31日(金)

(3) 調査対象

全学新生(通学課程)・大学院生

(4) 調査方法

出題大学アンケートシステム(Web)で実施

2. 回答状況

1,382人(回答者数)/30,885人(対象者数) 回答率:4.5%

集計の要約①

- 生成AIを利用した経験があるのは、**74.3%**
- 利用目的で最も多かったのは「授業以外の勉強をする」の**76.7%**となった
- 「生成AIによる文章の内容が正しいかを確認し、必要に応じて修正した」の肯定的回答は、**90.0%**である
- 「生成AIツールについて理解を深めたい」の肯定的回答は**84.4%**となった

集計の要約②

- 「授業の課題を解く・課題を作成する」目的は、4年生や研究科よりも1～3年生の方が多かった
- 「就職活動」目的は、3年生の**61.8%**があてはまる
- 学部や研究科を問わず、理工系は生成AIツールを利用した経験が人文社会系よりも多かった
- 学部よりも研究科、人文社会系よりも理工系において、「必要に応じて有料版の生成AIツールを利用したい」の肯定的回答が多かった

集計の要約③

・自由記述では、課題や研究、メールなど文章表現の確認、日常的な検索から趣味やアイデア出しなどが挙げられる

- 生成AIの利用経験は、教員よりも学生の方が多かった
- 「必要に応じて有料版の生成AIツールを利用したい」において、学生よりも教員の方が肯定的回答は多い
- 「生成AIツールについて理解を深めたい」や「生成AIツールは、信頼していないので利用しない」という考えは、学生と教員の間で差があるとは言えなかった

12 教員に対する生成 AI ツールの利用に関する調査(抜粋)

 2025 年 3 月 法政大学教育研究支援機構 教育開発・学習支援センター 生成 AI ツールの利用に関する教員対象調査の実施結果について 1 調査概要 (1) 目的 生成 AI ツールが教育現場において様々な面で影響を及ぼすと考え、本学における教員の生成 AI ツールの利用状況を把握し、また、授業における応用事例を共有することを目指す。その上で、当センターとして、生成 AI ツールをどのように教育改善や学習支援に活用していけるかを検討する。 (2) 調査期間 2024 年 10 月 21 日（月）～11 月 10 日（日） (3) 調査対象 2024 年度授業担当教員 (4) 調査方法 法政大学アンケートシステム (Kos) で実施 2 回答状況 347 人（回答者数）/4,969 人（対象者数） 回答率：7.15%	集計の要約① <u>回答者における割合</u> - 生成 AI を利用した経験があるのは、57.3% - 利用目的で最も多いのは、翻訳・外国語作文（68.5%） 「生成 AI ツールの理解を深めたい」について、肯定的回答は8割を超える 「有料版の生成 AI を利用したい」の肯定的回答は5割程度である - 生成 AI ツールを「信用していない、著作権やプライバシーの問題」で利用しないという肯定的回答は多くない 集計の要約② <u>回答結果について</u> - 所属（人文社会系、理工系、兼任講師）別の集計では、「翻訳・外国語作文」の利用目的が兼任講師で少ない - 利用状況別の集計は、「利用せず今後も利用しない」を除く回答者において「生成 AI ツールの理解を深めたい」の肯定的回答が多い 「今はしていない、今後使ってみたい」の回答者において、生成 AI を「信用していない、著作権やプライバシーの問題」で利用しないという肯定的回答は多くない
--	---

集計の要約③

利用したことのある生成 AI ツールについて

- 「ChatGPT」が最も多く、他に「CoPilot」「Gemini」「DeepL」などあげられる

「その他」回答者の具体的な利用目的（自由記述）について

- 学生がレポートや課題などで生成 AI を利用したときの内容を調べるため
- アイデア出しやアイデアの整理、文章の校正
- 検索エンジンやデータの収集など

集計の要約④

生成 AI ツールを用いた授業において工夫した点（自由記述）について

- 生成 AI は、語ったものを（ハルシネーションも含めて）生成すると実際に見せて議論する
- 授業によっては、創作の利用を勧める場合と禁止する場合もある
- 検索エンジン、出典を明記するという利用もあれば、検索でなく「生成」という点を強調する場合もある